

「田辺市の環境」刊行にあたって

我々が住んでいるこの田辺市は世界遺産「熊野古道」や「熊野本宮大社」に代表される古い歴史や文化、天神崎をはじめとする豊かな自然環境に恵まれ、私たちはこれらを大切に、自然環境からの恩恵を受けて暮らしています。もちろん私たちだけではなく地球の全ての生物は様々な影響を相互に受けながらこの恩恵の中で生きています。

近年、私たちが便利で快適な生活を求め続けた結果、資源やエネルギーの大量消費が続く、自然環境の破壊による生物多様性の損失や地球温暖化の進行など、日頃からの生活環境に係る問題から地球規模に至る問題まで、様々な問題が提起されています。

特に2015年（平成27年）12月の気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）において、2020年（平成32年）以降の温室効果ガス削減等のための新たな国際枠組み（パリ協定）が採択され、2020年（平成32年）以降の温室効果ガス排出削減目標を設定したことに加え、途上国・新興国に対しても、温暖化対策への自主的な取組が求められるようになり、我が国でもより一層の対策が求められることとなります。

日本国内においては、パリ協定の採択を受けて、2016年（平成28年）5月に「地球温暖化推進法」の改正並びに「地球温暖化対策計画」が策定され、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故によりエネルギーを巡る環境の大きな変化に直面している中、地方公共団体の役割がますます重要視されつつあります。

魅力ある自然豊かな田辺市を後世に継承していくためには、市民一人ひとりが環境問題全体について考え、住民と行政が協働して取組を進めることが必要不可欠であります。

本市では第1次田辺市総合計画において「環境にやさしいまちづくり」を掲げ、温室効果ガス排出抑制に係る取組として太陽光発電を活用した津波避難誘導灯や太陽光パネル等の設置など、自然エネルギーの活用に努めている他、ごみ減量とリサイクルによる循環型社会づくり、生活排水処理による水質浄化、環境に関する学習会の開催や清掃活動を実施する等の諸施策を展開しており、今後におきましても、市民の皆様と一体となり、環境にやさしいまちが実現できるよう、たゆまず力を尽くして参りたいと考えております。

本冊子は、平成25年度から27年度における本市の環境の現状等について取りまとめたものであり、皆様にご報告申し上げますとともに、これにより、本市の環境問題について、一層のご理解を深めていただくことで皆様の環境保全に対する理解と行動の一助となれば幸いに存じます。

平成29年3月

田辺市長 真砂 充敏

